

やりがい

介護福祉士は、入居者のみなさんが朝起きて寝るまでの一日を通して関わり続けます。とても近い存在で、一緒にすごすことは私たち自身の生活の一部でもあります。ケアする中で、入居者のできることが増えたり、笑顔になったりする姿がみられたとき、とてもうれしい気持ちになります。

なるための道

「介護福祉士」の国家資格を取得するための専門学校もありますが、現場で働きながら取得を目指す道もあります。介護の専門知識は、誰しも持っていません。子どものうちから興味を持ってもらい、一人でも多くの仲間を増やしたいですね。

なりたい人へ

入居者やその家族、他職種のスタッフらとの信頼関係を築くために必要となるのが、コミュニケーション力です。明るく元気で、人と話すことが好きな人に向いている仕事。子どものうちから、幅広い年代の人とたくさん接してほしいなと思います。体力に自信がある人もぜひ!



看護師(左)と入居者の体調などについて情報共有する介護福祉士の山本さん



にちじょうせい かつよ そ ささ 日常生活寄り添い支える

介護福祉士

しよつぶ苑グループ「江津しよつぶ苑」

山本理恵さん(42)

「介護福祉士」は、体が不自由な高齢者や障害のある人に対して、日常生活を送るために必要な身の回りのサポートをしています。しよつぶ苑グループ「介護付有料老人ホーム」江津しよつぶ苑」の山本理恵さん(42)に、仕事に対する思いや、やりがいを聞きました。

山本さんが働くのは、食事や入浴などの日常生活を支援、介護サービスを提供する高齢者向け施設です。介護スタッフが24時間体制で勤務し、入居者の心身の健康を支えています。介護に関心を抱くようになったきっかけは、



入居者に笑顔で語りかける介護福祉士の山本理恵さん

11月17日、熊本市東区

※おしごとの動画や、こちらに詳しい情報を「学びのコミュニティサイト」に掲載しています。右面の登録方法を見てアクセスしてね。

◇1982年生まれ。高校卒業後、専門学校で国家資格「介護福祉士」を取得。介護老人保健施設(老健)勤務を経て、2019年から現職。介護福祉士歴は22年で、新人研修も担当しよつぶ苑グループ独自の役職「介護スペシャリスト」。熊本市在住。

かけは、子どものころ、要介護の曾祖母を介助する祖父や両親の姿を見てきたことでした。「介護は誰もが必ず通る道。決して関係のない世界ではない」と感じた山本さん。高齢化でニーズが高まる福祉に携わりたいの思いも募り、専門学校で介護福祉士の資格を取得しました。

食事の介助では、相手のペースや好みを考え、口に運んだり、食器を並べ替えたりして偏りなく食べてもらう工夫をします。お風呂や排せつなどナイーブな部分のお手伝いはより気を配り、慎重に。「押しつけるようなケアにならないよう、相手に寄り添い、



「介護記録」を記入する山本さん。入居者の健康状態などを記録していました

- ある日のスケジュール
- 5:00 起床
 - 7:00 早出の日の出勤。夜勤担当から引き継ぎを受ける
 - 7:30 朝食や排せつの介助
 - 9:00 入浴介助
 - 11:30 休憩
 - 13:00 介護記録、洗濯物を片付ける
 - 15:00 おやつ介助
 - 16:00 退勤